

# プレカット ニュース

一般社団法人 全国木造住宅機械プレカット協会

東京都千代田区永田町2丁目4番3号永田町ビル6階

TEL 03 (3580) 3215 FAX 03 (3580) 3226

<http://www.precut-kyokai.com>

## 新年のご挨拶

一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会  
会長 原田 実生

新年おめでとうございます。輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、会員の皆様方には、常日頃、当協会の事業運営に格別のご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は度重なる大型台風襲来に伴う暴風雨等、例年にも増して自然災害が頻発した年でした。被災された方々にはお見舞い申し上げますとともに、当協会も復旧・復興に微力ながらも貢献したいと考えております。

さて、昨年の我が国経済は、上半期は順調にプラス成長になっていましたが下半期から成長ペースは大きく鈍化してきております。このような中、木造住宅の新設住宅着工戸数をみましても、上半期は対前年比プラスとなりましたが、下半期はかなり減少した数値となっています。これは、消費税増税の駆け込み需要とその反動及び甚大な台風等の被害が影響しているものと思われます。先行きについても、当面、横ばいで推移し、消費税増税の駆け込み需要の反動減が一巡するにつれて、消費は再び緩やかな増加基調にあると見通しされています。

このような中で、昨年のプレカット加工業の業況をみますと、全体的にはやや軟調な住宅着工を背景に、地域差はありますが厳しい経営環境下にありました。一方、木材利用に関しては、国産材資源の充実を背景に、公共建築物への木材利用の推進など各般の積極的な政策を受け、各地で中大規模木造建築物の大型商業施設や公共施設等の建設が促進されるなど、これらの動きがプレカット加工業においても、新たな需要分野として期待されています。

当協会ではプレカット加工業に対する技術支援の取り組みとして、平成24年度から「プレカットCAD技術者認定登録」を実施しています。昨年までに全国の会員内外工場の492名に認定登録をしていただいています。これらの工場においては、認定技術者の存在が各プレカット工場の優れた加工技術レベル向上の新たな証、として活用されているところです。

今後については、プレカット加工率が9割を超えている状況と少子高齢化等を背景とした新設住宅着工戸数の漸減傾向への対応として、一般流通材を利用した施設系中規模木造建築物等のプレカット加工図作成に当たって必要となる木質材料、木質構造、関連法規等について研修内容に加え、新たな需要への対応能力の向上に努めて行くこととしています。

一方、業務支援としては、合法木材供給事業者認定等による違法伐採対策の推進を図るとともに、全国住宅プレカット部材共済会が実施するプレカット部材瑕疵保証事業に加えて、公共建築物等木造利用促進法の施行により、地域材のプレカット部材を利用した施設系木造建築物が増加している関係で、プレカット工場の賠償リスクを担保する「プレカットミス賠償責任保険制度」を構築し、運用を開始いたしております。

これらを通じて、安全・安心な住環境の創造で顧客に満足の得られるような木造建築物の提供に協会員がお手伝いできることを願っています。

本年が住宅産業・木材産業にとって飛躍の年になりますよう、そして皆様方にとってすばらしい一年となりますようにご祈念申し上げますとともに、皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げ、新年のご挨拶いたします。



# 第54回全国木材産業振興大会高知大会開催される

## —「都市の木造化推進へ」宣言決議を採択—

第54回全国木材産業振興大会は、令和元年11月6日に「次世代につなぐ～ウッドファースト社会を目指して」をメインテーマに掲げて、高知県高知市の「高知市文化プラザかるぽーと」において、全国から600名が参加し開催されました。来賓として太田豊彦林野庁次長、遠山明国土交通省住宅局住宅生産課木造住宅振興室長、中谷元衆議院議員、岩城孝章高知県副知事、岡崎誠也高知市長など多数のご来賓が出席され、祝辞を述べられました。

大会の第一部では、①都市部などでの木材利用の大幅な拡大のため、法律・制度の見直し等抜本的対策の実現に取り組む。②森林資源の循環利用のため、森林環境譲与税等も活用し、山元に利益を還元できる体制の構築に森林・林業団体と一体となって取り組む。③木材産業振興のため、予算の確保、税制措置の継続に取り組む。④新たな木材需要を創出するため、技術開発・普及等に取り組む。⑤合法伐採木材、JAS製品等、品質・性能の確かな木材供給や人材の育成確保に取り組む。との大会宣言が満場一致で決議されました。

また、第二部においては、高知県立高知城歴史博物館長の渡部淳氏を講師として「土佐と木材～土佐藩の財政と林業～」と題した記念講演が行われました。文人紀貫之の最終官職が木工権頭で木材調達に携わっていたこと、土佐材が楠木正成の時代以降重宝され藩の財政を支えて来たこと、江戸城にも土佐材が多く使われていること、名古屋市立売堀の「白髪橋」が土佐の白髪山産出の桧に由来するなど、興味深い内容に会員や一般聴衆が熱心に耳を傾けていました。

第三部の表彰式では、退任団体長、木材産業功労者、協同組合事業功績者等それぞれの表彰が行われました。

## プレカットCAD技術者認定登録状況

(令和元年12月20日現在)

研修受講 年度	認定級別	東京会場		名古屋会場		大阪会場		合計	
		認定者 (人)	うち会員工場に 所属する者	認定者 (人)	うち会員工場に 所属する者	認定者 (人)	うち会員工場に 所属する者	認定者 (人)	うち会員工場に 所属する者
24年度	2級	20	12	10	4	14	6	44	22
25年度	1級	17	8	—	—	—	—	17	8
	2級	16	10	21	8	15	3	52	21
	3級	4	0	1	0	2	0	7	0
26年度	1級	2	0	—	—	—	—	2	0
	2級	42	25	33	14	—	—	75	39
	3級	4	3	2	0	—	—	6	3
27年度	1級	3	2	—	—	—	—	3	2
	2級	29	12	21	11	—	—	50	23
	3級	4	2	4	2	—	—	8	4
28年度	1級	7	3	—	—	—	—	7	3
	2級	25	13	—	—	—	—	25	13
	3級	3	2	—	—	—	—	3	2
29年度	1級	7	1	—	—	—	—	7	1
	2級	49	20	—	—	—	—	49	20
	3級	13	7	—	—	—	—	13	7
30年度	1級	6	3	—	—	—	—	6	3
	2級	57	26	—	—	—	—	57	26
	3級	3	3	—	—	—	—	3	3
合計	1級	42	15	—	—	—	—	42	17
	2級	238	118	85	37	29	9	352	164
	3級	31	17	7	2	2	0	40	19

注)：24年度登録者については、登録の有効期限が平成30年度末となっており、登録更新した者(翌年度更新登録予定者は含む)を計上した。

※会員欄は、令和元年12.20時点

# プレカット業況調査 (令和元年11月期)

一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会調べ (回答率: 45 %)

設 問	回答比率 (%)			D I	前回 D I
	(1)	(2)	(3)		
1-1 今月の受注額は3ヵ月前と比べて如何ですか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	38	48	14	+24	-7
1-2 3ヵ月後の受注額をどう予測しますか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	3	42	55	-52	-7
2-1 貴社の坪当たり平均総加工単価はいくらですか。	答: 6,000円(対前回調査±0円)				
3-1 今月の製品加工単価は3ヵ月前と比べて如何ですか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	3	97	0	+3	-4
3-2 3ヵ月後の製品加工単価をどう予測しますか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	0	90	10	-10	-7
4-1 今月の資材(製品)入手状況は如何ですか。 (1) 容易 (2) 変わらず (3) 困難	17	80	3	+14	+24
4-2 3ヵ月後の資材(製品)入手状況をどう予測しますか。 (1) 容易 (2) 変わらず (3) 困難	14	86	0	+14	+14
5-1 今月の収益は3ヵ月前と比べて如何ですか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	14	69	17	-3	-7
5-2 3ヵ月後の収益をどう予測しますか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	3	49	48	-45	-21

\*DI=(1)の%- (3)の%、+の数値が大きいほど好況、-の数値が大きいほど不況。

\*前回調査: 令和元年年8月

## ◇簡単なコメント

11月の各設問のDIをみると、受注額については、現状では好転の会員が悪化の会員数を上回っているが、逆に今後については悪化の予想が大幅に上回っている。収益についても、-3の現況となっているが、今後については悪化の予想が半数に近い情勢となっている。加工単価については大半の会員が変わらずの状況であり、3ヵ月後についてもほぼ変動がないと予想している。また、資材の入手状況は、市況が軟化しているためか現状、先行きとも容易な予想となっている。今後は、消費増税での需要の反動減の回復等により、受注額と収益が改善されることを期待したい。

- 1 受注額のDIは+24で前回調査時(令和元年8月期)に比べて、好転の現状にあるようだ。しかし、3ヶ月後の予測のDIは-52で現状よりかなり悪化するとの予想が大半を占めている。今後は、予想を覆すような業況の改善と活性化を期待したい。
- 2 3ヵ月前と比較した製品加工単価のDIは+3と大半の会員は変わらずの状況となっている。平均総加工単価も6,000円と3ヵ月前と比べて変わらずとなっている。3ヵ月後の製品加工単価のDIは-10であるが、加工単価の変動はさほどない現状にあるといえる。
- 3 資材入手状況のDIは+14で入手困難ではない状況にある。3ヵ月後の予測のDIについても+14であり、大半の会員は現状維持以上の予想としている。
- 4 3ヵ月前と比べた今月の収益のDIは-3とほぼ変わらずの状況にある。前回調査時の3ヶ月後の収益予測は-21であったが現状では予想に反して改善したものとなっている。さらに、3ヶ月後の収益予測は-45と、現状よりかなり困難な状況になる見通しとなっている。

# 協会会員工場基礎調査結果について (第4回)

## — 年間総生産量・AQ製品生産量調べ —

調査対象年月:平成30年12月 調査対象工場数:36工場

	10,000坪未満	10,000坪以上 20,000坪未満	20,000坪以上 30,000坪未満	30,000坪以上 50,000坪未満	50,000坪以上	合計
総生産量 (単位:100坪)	77	156、154、 124、126、 123、121、 135	270、260、 263、274、 210、258	355、340、 445、470、 300、480、 403、475、 350、317	841、601、 600、4,100、 4,800、527、 663、1,320、 900、4,675、 1,284、1,154	27,951
平均	77.0	134.1	255.4	393.5	1,788.8	776.4
(前年平均)	(28)	(146.2)	(254.0)	(406.9)	(1,598.8)	(735.8)
AQ製品生産量 (単位:100坪)	70	0、0、3、 0、0、9、 135	0、0、0、 0、0、0	0、0、98、0、 0、0、0、0、 0、83	9、0、0、 4,100、4,480、 0、663、100、 0、0、0、312	10,062
平均	70.0	21.0	0.0	18.1	805.3	279.5
(前年平均)	(11.5)	(10.9)	(0.0)	(87.4)	(438.5)	(187.4)
AQ製品生産比率	90.9%	15.7%	0.0%	4.6%	45.0%	36.0%
(前年AQ製品 生産比率)	(41.1%)	(7.5%)	(0.0%)	(21.5%)	(27.4%)	(25.5%)

### ◇簡単なコメント

- 1 会員36工場を対象とした調査によると、平成30年の1工場当たり年間平均生産量は、77,640坪で、1棟当たり40坪換算で、約1,940棟に相当し、前年の平均生産量に比べると、約5%の増加になっている。これは、プレカット工場の加工設備の増設や更新が引き続き進んでいることや各工場の活発な受注活動に比例した数字となっている。階層別に見ると、50,000坪以上の規模の大きいクラスが増加し、小規模クラスで平均生産量が減少している。これまでの調査では、各工場の生産能力の増大により生産量の階層別に見た工場数は上位の階層にシフトする傾向が見られたが、今回の調査ではその動きが顕在化してきている。
- 2 総生産量に占めるAQ製品の生産比率は36.0%で前年に比べて10.5ポイント上昇した。階層別にAQ製品の生産比率を見ると、今回は3万坪から5万坪未満の中堅クラスのプレカット工場において、AQ製品の生産が低下していることがうかがえる。反面、大規模工場においては増加が顕著になっている。しかしながら、今回の調査では、AQ製品の生産に取り組む会員工場は12工場と前回調査より減少し、調査対象工場の4割には満たない状況である。今後、より一層の性能・品質の高い住宅供給のためには、まずは、AQ製品生産に取り組む会員工場の増加が喫緊の課題といえる。

# 木の街づくりの推進に向けて

## — 令和元年度木材利用推進「全国会議」が盛大に開催 —

木材利用推進中央協議会（会長 鈴木和雄全木連会長 構成：17中央協議会会員団体（当協会も構成団体）、47都道府県地域協議会、）は、11月1日（金）に江東区新木場の木材会館において、令和元年度木材利用推進「全国会議」を開催しました。会議では、主催者として鈴木会長のあいさつに続き、来賓として、武藤信之林野庁木材利用課建築物木材利用促進官、遠山明国土交通省木造住宅振興室長の祝辞があり、引き続いて各省庁から「公共建築物・街づくり等木材利用推進の取組み」の発表が行われました。発表では、林野庁、国土交通省に加えて、市川善浩環境省地球温暖化対策事業室長補佐及び原誠史文部科学省施設助成課長補佐からそれぞれの国の施策・取組みについて、事例等を交えて紹介されました。

講演会では、(株)日建設計の高橋恵多氏、勝矢武之氏が「木材会館等の中大規模建築物の木造化・木質化を進める際の課題等について」、三菱地所(株)の藤本祐貴氏、名倉良起氏が「CLTを構造材として都市部の狭隘地での8階建て事務所建築における設計・施工上の課題と対応策」のタイトルで講演を行いました。

全国会議の中では、木材利用推進中央協議会主催による「令和元年度木材利用優良施設」の表彰が行われました。これは、木造建築物等において地域材を有効活用した施設、木材利用分野を拡大した施設、低位利用木材を有効活用した施設など、木造建築物の普及のため他の模範になる施設を表彰し紹介するものです。今回から国土交通大臣賞、環境大臣賞が創設されました。

表彰施設は次のとおり、内閣総理大臣賞、農林水産大臣賞、国土交通大臣賞（新設）及び環境大臣賞（新設）はそれぞれ1点、ほかに、林野庁長官賞3点、木材利用推進中央協議会会長賞4点及び審査委員会特別賞2点が表彰されました。

- |                     |   |
|---------------------|---|
| （ 内 閣 総 理 大 臣 賞 ）   | 屋久島町庁舎（鹿児島県屋久島町）  |
| （ 農 林 水 産 大 臣 賞 ）   | 兵庫県林業会館（兵庫県神戸市）   |
| （ 国 土 交 通 大 臣 賞 ）   | おりづるタワー屋上展望台「ひろしまの丘」（広島県広島市）  |
| （ 環 境 大 臣 賞 ）       | 香南市総合子育て支援センター「にこなん」（高知県香南市）  |
| （ 林 野 庁 長 官 賞 ）     | 日向市役所（宮崎県日向市）<br>道の駅ふたつ（秋田県能代市）<br>PARK WOOD高森（宮城県仙台市）  |
| （木材利用推進中央協議会会長賞）    | みやこ下地島空港ターミナル（沖縄県宮古島市）<br>天草市庁舎（熊本県天草市）<br>北川村小規模多機能施設「ゆずの花」（高知県北川村）<br>allée de JINGUMAE（アレーデ神宮前：東京都渋谷区） |
| （ 審 査 委 員 会 特 別 賞 ） | 糸魚川市駅北復興住宅（新潟県糸魚川市）<br>多賀町中央公民館 多賀結いの森（滋賀県多賀町）  |

■ 内閣総理大臣賞 (1点)



屋久島町庁舎 (鹿児島県屋久島町)



■ 農林水産大臣賞 (1点)



兵庫県林業会館 (兵庫県神戸市)



■ 国土交通大臣賞 (1点)



おりづるタワー屋上展望台「ひろしまの丘」(広島市)



■ 環境大臣賞 (1点)



香南市総合子育て支援センター「にこなん」(高知県香南市)



注：詳細は、木材利用推進中央協議会HPに掲載してあります。